

## 企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

## エントランスギャラリー (1F)

「旅の図書館 40年のあゆみ」  
(2018年10月～12月)

開設から40年を迎えた当館の歩みを、時代を追いながらパネルでご紹介しています。社会が大きく変わっていく中で、3度の移転を経験しながらも、専門図書館としての機能とコレクションの充実に取り組んできた当館の運営の歴史を、なつかしい写真とともにぜひご覧ください。



## ガーデンラウンジ (1F)

「旅の図書館  
オススメの一冊」  
(入れ替え展示中)

「一度は読みたい  
観光研究書 & 実務書100冊」  
(継続展示中)

「旅心を誘う、  
旅の本のレジェンド30選」  
(継続展示中)



## 展示ウォール (B1F)

「古書から学ぶ」  
(2018年10月～12月)

機関誌「観光文化239号」(10月発行)では、旅行案内書、国立公園、温泉、ホテル、観光政策の歴史を語る上で欠かせない古書をその分野の先生方にご紹介いただいています。特集テーマに関連した図書を紹介します。



当財団専門委員が選んだ  
「わたしの一冊」(継続展示中)

## 古書展示ギャラリー (1F)

40周年特別展示第2弾：  
「木下淑夫と木下文庫」(2018年10月～12月)

ジャパ・ン・ツーリスト・ビューロー生みの親としても知られる木下淑夫(1874-1923)は日本の鉄道の近代化や観光の発展に大きな役割を果たしました。今回は、木下の功績を出版物からたどるとともに、当館所蔵の木下文庫(木下の蔵書を中心に構成。1929(昭和4)年に有志により設立)の一部をご紹介します。



## Information

## 雑誌目録ができました!

当館が所蔵する雑誌や地域情報誌、機内誌、時刻表が一覧になった目録を作成しました。1F雑誌架に設置していますので、ご来館の際はぜひご覧ください。



## 古書・貴重書のデジタルアーカイブ化に伴うお知らせ

40周年事業の一環として、引き続き古書のデジタルアーカイブ化などを実施しております関係で、閲覧いただけない資料がございます。古書をご利用予定の方は、ご来館の前にHPをご確認ください。

旅の図書館開設40周年特別版  
「観光文化」239号  
「古書から学ぶ」を発行

当館は2017年度より古書・貴重書の整理を進めています。改めて、古書から歴史をひもとくと、現代にも通用する考え方や思わぬ発見があり、アイデアの宝庫であることに気づかれます。本号では、各分野の歴史を語る上で欠かせない古書を取り上げながら、古書の面白さや古書から得られる示唆について紹介しています。また、当館40年のあゆみも合わせてご紹介しています。

旅の図書館開設40周年特別企画  
「第15回たびとしょCafe」を  
開催します

テーマ 古書から学ぶ未来へのヒント  
—日本の観光の課題とこれから—  
ゲストスピーカー 西村 幸夫氏  
(神戸芸術工科大学 教授)

今回は都市計画学の大家である西村先生をお招きし、古書や歴史をひもとくことで見えてくる日本の観光の課題や今後の観光のあり方について考えます。

●日時: 2018年10月16日(火) 17:30～19:30  
●場所: (公財)日本交通公社 B1Fライブラリーホール  
●定員: 50名(先着順) ●参加費: 無料  
●申込方法: 以下サイトの申し込みフォームからお申し込みください。  
<https://www.jtb.or.jp/library/event>

## たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 5

2018年10月号

旅の図書館は  
開設40周年を迎えました。

1978(昭和53)年10月、「観光はそれ自身が文化であり、その観光文化を向上させたい」という当時の会長の想いのもと当館は誕生しました。その後、利用者の皆様のご要望などもいただきながら、当館独自の蔵書体系を構築してまいりました。

2016年に「観光の研究や実務に役立つ図書館」として移転・リニューアルしてからは、観光研究・情報のプラットフォームとして、様々な取り組みにチャレンジしています。今後も引き続き、観光に携わる皆さまのお力になれる図書館を目指して尽力していきますので、どうぞよろしくお願いたします。

特集

# 旅の図書館の40年

開設40年の節目を記念して、当館40年の歩みをふりかえりご紹介いたします。

## 草創期 1978~1984

教養型旅行者の情報ニーズへの対応を目指し、当財団資料室内に設置された「観光文化情報センター」(1975年設置)を改編・拡充するかたちで「観光文化資料館」を開設しました。

- 1978 ● **「観光文化資料館」を開設(10月11日)**  
東京駅八重洲北口第一鉄鋼ビル1階に、教養志向型旅行者を目指す人への情報提供に資する図書館として開設  
  
開設当時の観光文化資料館(外観)  
蔵書数 約4,000冊
- 1979 ● 第二次オイルショック  
来館者数が1万人を突破  
開設2周年記念「第1回文化講演会」  
講師：井上靖氏「シルクロードの旅から」
- 1980 ● 開設3周年記念「第2回文化講演会」  
講師：松本清張氏「古代史の旅」  
イラン・イラク戦争勃発  
  
第2回文化講演会
- 1982 ● 開設4周年企画：国際線の機内誌(33誌)、国内各地の私鉄やバス時刻表(23種)を展示
- 1983 ● 「民族文化の旅セミナー」開催(1983-84年)  
東京デイズニールランドオープン  
来館者数が10万人を突破

## 成長期 1985~1995

国による様々な観光政策の展開や旅行市場の拡大とともに、来館者数も着実に増加していきました。

- 1985 ● 国際科学技術博覧会(科学万博「つくば'85」)開催
- 1987 ● 国鉄民営化/「総合保養地域整備法(リゾート法)」成立
- 1988 ● 来館者数が20万人を突破
- 1990 ● 年間日本人出国者数1000万人達成
- 1991 ● 湾岸戦争勃発  
来館者数が30万人を突破(7月)  
  
来館者であふれる館内(1991年)
- 1993 ● 開設15周年特別記念展示「世界と日本の時刻表フェア」開催
- 1994 ● 月間来館者数過去最高を記録(4月)  
来館者数が40万人を突破
- 1995 ● 阪神・淡路大震災  
Windows95、日本で発売  
年間来館者数36,876人を記録(1995年度)  
  
開設15周年を記念した「世界と日本の時刻表フェア」

## 転換期 1996~2015

2度の移転に加え、1990年代後半からのインターネットの急速な普及など、当館を取り巻く厳しい環境変化の中で、専門図書館としての力を蓄積していきました。

- 1996 ● **第一鉄鋼ビル1階から第二鉄鋼ビル 地下1Fへ移転**  
書架を拡充  
蔵書数 約19,000冊  
  
第二鉄鋼ビルに移転後の館内
- 1997 ● 来館者数が50万人を突破
- 1998 ● 長野冬季オリンピック・パラリンピック開催  
開設20周年記念式典「観光文化資料館開設20年を祝う会」開催、「観光文化資料館二十年史」発行、海外ガイドブックフェア開催
- 1999 ● **「旅の図書館」へ名称を変更**
- 2001 ● 米国同時多発テロ  
インターネット蔵書検索システムを導入
- 2002 ● FIFAワールドカップ・日韓大会開催
- 2003 ● 開設25周年記念「観光文化セミナー」の開催スタート
- 2004 ● **デジタルコレクション(「ツーリスト」「旅」)館内で一部閲覧開始**
- 2005 ● 愛知万博「愛・地球博」開催
- 2006 ● **「旅の図書館講座」の開講スタート**
- 2007 ● 「観光立国推進基本法」施行
- 2008 ● 観光庁発足  
開設30周年記念講演会開催  
講師：山口由美氏「だから世界の旅は面白い」、池内紀氏「旅する心」  
蔵書数 約32,000冊  
  
旅の図書館講座(第5回)
- 2010 ● 特別展示の企画開催スタート  
来館者数が80万人を突破
- 2011 ● 東日本大震災、福島第一原子力発電所事故
- 2012 ● **八重洲ダイビル地下1階に移転**
- 2013 ● 図書館システム(LIMEDIO)運用開始
- 2014 ● 図書の独自分類の構築(～2015年6月)  
「たびとしょCafe」開催スタート
- 2015 ● 移転準備のため一時閉館(2015年10月～2016年9月)

## 再生期 2016~

1年間の一時閉館を経て当財団本部とともに港区南青山に移転。新たなコンセプトの専門図書館として再出発しました。

- 2016 ● (公財)日本交通公社、文部科学省から科学研究費補助金取扱規程に規定する学術研究機関の指定を受ける  
**旅の図書館リニューアル開館**  
観光の研究者・実務者向けの図書館としてリニューアル開館。観光文化231号「観光の研究と実務に役立つ図書館」を目指して刊行。  
蔵書数 約60,000冊
- 2017 ● 国連世界観光機関(UNWTO)の寄託図書館に認定  
リニューアル開館1周年  
ニュースレター「たびとしょ」刊行、リニューアル開館1周年記念パネル展示、特別企画第11回たびとしょCafe(猪谷千香氏「人と地域、情報をつなげる図書館～観光と図書館の新たな連携スタイルを考える」)
- 2018 ● 古書のデジタルアーカイブ化に着手  
開設40周年  
観光文化239号「古書から学ぶ」刊行、特別企画第15回たびとしょCafe(西村幸夫氏「古書から学ぶ未来へのヒントー日本の観光の課題とこれからー」)

# 旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します!



- 1 **草津温泉の社会史**  
関戸明子 著 青弓社 2018年5月 A5判 224頁  
日本を代表する古湯、名湯草津温泉。そして温泉地がそのまま村レベルの自治体でもある数少ない存在。共同浴場の発展や草津温泉のイメージとそれを作るメディアから立体的に描き出す温泉地と観光の形成史。
- 2 **旅行会社物語**  
安田亘宏、中村忠司 著 教育評論社 2018年6月 B6判 264頁  
インターネットの普及とともに旅行会社のビジネスモデルは大きく変わりつつある。日本の旅行会社はどうなっていくのだろうか?旅行・観光業界の実務者やこれから旅行会社や観光業界を目指す学生におススメの一冊。
- 3 **宇宙旅行入門**  
高野忠、バトリック・コリンズ、日本宇宙旅行協会 編 東京大学出版会 2018年7月 A5判 320頁  
宇宙旅行本の最新刊。技術のみならず、実現に必要とされるあらゆる課題を検討し、日本での宇宙旅行実施への手引きとなるよう編まれた基本書。はるか先の話のように思われる宇宙旅行も現実味を帯びてきた。
- 4 **ホスト・アンド・ゲスト 観光人類学とは何か**  
ヴァレン・L・スミス 編 市野潤平、東賢太郎、橋本和也 監訳 ミネルヴァ書房 2018年6月 A5判 468頁  
移動、余暇、非日常性などの人類学理論から、世界各地におけるホストとゲストの関係や観光開発による文化変容をつぶさに描き出す観光学の古典の監訳。西山徳明氏(北海道大学観光学高等研究センター教授、当財団専任委員)が選ぶ「私の一冊」。
- 5 **サステナブルツーリズム 地球の持続可能性の視点から**  
藤橋亜矢子 著 晃洋書房 2018年6月 A5判 182頁  
現在および将来の観光のために避けて通れない「地球環境の持続可能性」。必要不可欠なグリーン施策や多くの実例を通して、観光産業に今求められているサステナブルツーリズムの本質を学ぶ入門書。
- 6 **水族館の文化史 ひと・動物・モノがおりなす魔術的世界**  
清井裕一 著 勉誠出版 2018年7月 A5判 357頁  
水族館には動物園とは異なった非日常的な「水の世界」が広がっている。ひとが「魚を見ることが」にはどんな意味が秘められているのか。古今東西の水族館文化を通して、ガラスの向こう側にひろがる水の世界へいざなう。
- 7 **超・インバウンド論 業界、規制、国境、あらゆる枠を乗り越えろ!**  
坪井泰博、村山慶輔 著 JTB 2018年7月 B6判 207p  
インバウンドの最前線にいる2人の著者の体験に基づく興味深い話や、海外15カ国・地域から日本への誘客に取り組み責任者が書いた最新事情が満載。インバウンドビジネスの実態に最も近い関連図書。
- 8 **宮本常一を旅する**  
木村哲也 著 河出書房新社 2018年6月 四六判 277頁  
人々の暮らしや風俗を克明に記録しながら日本中を歩いた「旅する巨人」、宮本常一の業績を追体験し、その先を探る。宮本を新たに継承する画期的紀行ノンフィクション。宮本常一ファンのみならずぜひ読んでほしい。
- 9 **鉄道少年たちの時代 想像力の社会史**  
辻泉 著 勁草書房 2018年7月 A5判 336頁  
いつの時代にもいる鉄道少年。時代ごとに、鉄道のイメージはどのような変遷をたどり(少年文化)とどのように関わってきたのか。鉄道に関する雑誌記事と鉄道ファンへの聞き取り調査をもとに明らかにする社会史。
- 10 **旅とデザイン DESIGNS FOR TRAVEL**  
BNN編集部 編 ビー・エヌ・エヌ新社 2018年5月 A4判 176頁  
良質な旅や観光を提案し、地域や移動、体験、滞在の魅力を引き出しているポスターやウェブサイトなどのデザイン事例を収録。存在感がありビジュアルで旅人を誘う。デザインの力が伝わってくる。